件名：感染症情報（マダガスカルにおけるマラリアの発生について）

【ポイント】
●各メディア報道によれば，マハジャンガⅡ市とベトルカ市においてマラリアの症例が発生し，死亡者が報告されています。
●マラリアの予防策として，防蚊対策は重要であり，沿岸部に滞在する場合は，抗マラリア薬予防内服をお勧めします。
●流行地（感染が疑われる地域）に入ってから７日目以降にマラリアを疑う症状が出た場合、速やかに医療機関を受診してください。

【本文】
マダガスカルでのマラリアは，首都アンタナナリボ等，中央高地でのマラリア罹患は極めて稀ですが，東海岸では通年，北・西海岸では雨季に流行します。各メディア報道によれば，マハジャンガⅡ市（首都中心部より約３８０ｋｍ北西）とベトルカ市（首都中心部より５００ｋｍ南）においてマラリアの症例が発生し，死亡者が報告されています。

マラリアはマラリア原虫をもった蚊（ハマダラカ属）に刺されることで感染する病気です。１週間から４週間ほどの潜伏期間をおいて，発熱，寒気，頭痛，嘔吐，関節痛，筋肉痛などの症状が出ます。マラリアには４種類（熱帯熱マラリア、三日熱マラリア，四日熱マラリア，卵形マラリア）あります。その中でも，熱帯熱マラリアは発症から２４時間以内に治療しないと重症化し、しばしば死に至ります。脳症，腎症，肺水腫，出血傾向，重症貧血など，さまざまな合併症がみられます。

マラリアの予防策として，防蚊対策は重要であり，沿岸部に滞在する場合は，抗マラリア薬予防内服をお勧めします。また、電気蚊取り器や虫よけスプレーやローションも効果的であり，濃度によって，効果の持続時間が異なりますので，こまめに塗る必要性など，予め情報を入手しておいてください。予防薬を内服していても感染することがありますので，ハマダラカの活動時間帯（主に夕暮れから明け方）には，長袖・長ズボンを着用し，できる限り肌の露出を少なくし，蚊に刺されないよう最善の策を講じて下さい。

流行地（感染が疑われる地域）に入ってから７日目以降にマラリアを疑う症状が出た場合，速やかに医療機関を受診してください。海外で症状が出たときのために，渡航先の医療事情を確認しておくことを勧めます。

今後も引き続き新聞，ニュース，インターネット等からの情報収集に努めて頂き，引き続き自らの身体の安全の確保に留意してください。

参考
◎マラリア情報ＨＰ：
厚生労働省検疫所ＦＯＲＴＨ　感染症についての情報　マラリア
http://www.forth.go.jp/useful/malaria.html